

国道の番号の欠番

JJ1SXA/池

国道には道路法に基づき番号が付けられているが、順番通りというわけでは無い、1号線から始まって58号線まであり、その次は101号線となる、つまり、国道59号線から100号線という道路は実在しない。

現在の国道は昭和27年に制定された「道路法」が礎になっている、その道路法では道路を以下の4つに分類、1.「高速自動車道」、2.「一般国道」、3.「都道府県道」、4.「市町村道」、更に2番の「一般国道」を以下の2つに分類した、2-1.「一級国道」、2-2.「二級国道」。

昭和40年の道路法改正により、一級国道と二級国道という区分は廃止され、「一般国道」の名称で一本化された、これ以降、国道が新設される時は3桁の番号が付与されている、一般国道として指定される条件の一つに、「都道府県庁所在地など、特に重要な都市を連絡する道路」という項目があります。

この改正前道路法の名残で58～100号が欠番となったのだが、国道58号は道路法改正後に2桁の番号が付いた唯一の路線である、この58号線のことだが、何処を走っているかという、沖縄本島北部から島の西側を通り、那覇市に通じる沖縄本島を走る主要道路で有るが、沖縄本島から北におよそ170km離れた奄美大島、そこから更に約230km離れた種子島、更にそこから約100km離れた本土の鹿児島市内に通じています。

この国道は政令上では、起点が鹿児島市、終点が那覇市となっています、総延長は880kmに及び、国道4号に次ぐ日本で2番目に長い国道だが、車が走れる区間は合計約270kmです、それ以外の約610kmは「海上区間」です。

一般国道として指定される条件の一つに、「都道府県庁所在地など、特に重要な都市を連絡する道路」という項目がありますが、国道58号の場合は鹿児島市と那覇市という県庁所在地同士を結ぶことから指定されています。

道路法改正後に何故、2桁台の番号が振られたのか？沖縄が日本に返還されたのが昭和47年5月15日。返還と同時に米軍が管理していた「軍道」、「軍営繕道」や、琉球政府が管理していた「政府道」が日本国政府に引き継がれた。

アメリカ統治時代に沖縄の主幹線道だった、「軍道1号線(那覇市～読谷村)」、「軍営繕道1号線(読谷村～名護市)」、「政府道1号線(名護市～国頭村)の総称」が国道に指定され、返還記念の特例として2桁の国道番号が付与されたという、道路法の改正以来、2桁番号で登録された国道は今のところ58号だけだ。

国道59号線から100号線は欠番だが、101号線からの3桁台の路線にも欠番がある、109～111号、214～216号の計6路線は過去に二級国道として存在していた路線だが、昭和38年に一級国道に昇格、または他の国道と統合されたため欠番になったのだ。

現在路線番号のついている国道は、507路線までであるが、欠番があるので実際には459路線だそうです。